

航空装備研究所

組 織 図

任務として航空機及び航空機用機器並びに誘導武器についての研究及び試験評価を担っています。所長は当研究所の業務を掌理し、以下、研究企画官及び四部(管理部、航空機技術研究部、エンジン技術研究部、誘導技術研究部)、並びに二支所(土浦支所及び新島支所)で構成されます。

研究企画官 重要な技術的事項の総括整理を担当しています。

管理部 主に文書、人事、給与、厚生、秘密保安、予算、決算、会計、行政財産管理、物品取得及び物品管理を担当しています。

航空機技術研究部 航空機のシステム化技術、航空機及び航空機搭載機器並びに誘導武器の要素技術に関する調査研究・試験等を担当しています。

エンジン技術研究部 エンジンのシステム化技術及び要素技術に関する調査研究・試験等を担当しています。

誘導技術研究部 誘導武器のシステム化技術及び要素技術に関する調査研究・試験等を担当しています。

土浦支所 主に誘導武器の要素技術についての試験に関する業務を担当しています。

新島支所 主に誘導武器についての試験に関する業務を担当しています。

航空装備研究所長

研究企画官

プロジェクト調整官

研究調整官

研究企画係

特別研究官

管理部長

総務課長

庶務係

課長補佐

業務係

会計課長

調達係

課長補佐

出納係

会計管理専門官

用度係

航空機技術研究部長

技術分析官

航空機システム・無人機知能化研究室

空力・飛行制御研究室

機体構造・材料研究室

搭載装備研究室

エンジン技術研究部長

技術分析官

エンジンシステム研究室

エンジン先進要素研究室

エンジン制御研究室

ロケットエンジン研究室

誘導技術研究部長

技術分析官

誘導システム研究室

誘導システム評価室

誘導制御研究室

シーカ研究室

誘導管制研究室

土浦支所長

業務班

試験室

新島支所長

業務班

沿革

昭和

- 33年 3月 防衛庁技術研究所立川試験場設置（一課二部）
- 33年 5月 技術研究本部第3研究所と改称
- 39年12月 第3部を新設
（第1研究所誘導武器関係編入、一課三部）
- 53年 4月 研究企画官を新設
- 57年 4月 管理部新設（四部）

平成

- 13年 7月 研究室名の変更並びに研究企画官の下に
研究調整官、研究企画係を新設
- 16年 4月 新島支所を編入（四部一支所）
- 18年 7月 技術研究本部航空装備研究所に改編
- 19年 1月 防衛庁から防衛省に移行
- 26年 4月 土浦支所を編入（四部二支所）
- 27年10月 防衛装備庁航空装備研究所に改編
- 30年 4月 研究部を航空機技術研究部、
エンジン技術研究部、誘導技術研究部に改編

受賞実績

平成

- 13年 6月 XF-2の一体成形複合材主翼構造の開発について、
日本複合材料学会より第11回技術賞を受賞
- 20年 6月 三次元複合材構造の開発について、
日本複合材料学会より第18回技術賞を受賞
- 26年 4月 次期固定翼哨戒機（XP-1）の開発について、
日本航空宇宙学会より第23回日本航空宇宙学会技術賞を受賞
- 28年 4月 XTS2ヘリコプター搭載用エンジンの研究について、
公益社団法人日本ガスタービン学会より
日本ガスタービン学会賞を受賞
- 28年 6月 公益社団法人自動車技術会関東支部より、感謝状を授受
- 30年 4月 次期輸送機（XC-2）の開発について、
日本航空宇宙学会より第27回日本航空宇宙学会技術賞を受賞

令和

- 2年 4月 ハイパワー・スリムエンジンの研究について、
公益社団法人日本ガスタービン学会より
日本ガスタービン学会賞を受賞
- 6年 4月 複合材コキュア一体成形主翼構造技術について、
日本航空宇宙学会より航空宇宙技術遺産として認定

防衛装備庁

組織図

防衛装備庁は、平成27年10月、防衛省の外局として設置され、装備品等について、その研究開発及び生産のための産業基盤の強化を図りつつ、研究開発、調達、補給及び管理の適正かつ効率的な遂行並びに国際協力の推進を図ることを任務としています。

長官の下に技術面での責任者である防衛技監、陸・海・空の将官及び技官の4名による装備官、庁内の所掌事務に関する統括整理をし、長官を補佐する審議官が置かれ、長官官房及び5部のほか、研究所、試験場等で構成されます。

